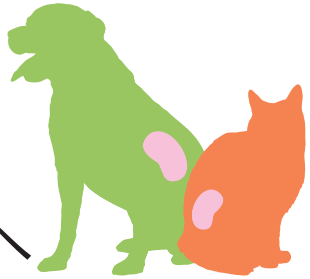
FUJIFILM
Value from Innovation

# わんちゃん・ねこちゃんのご家族さまへ

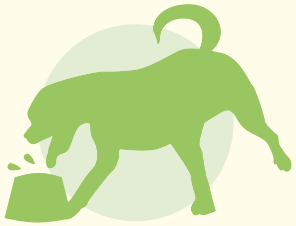


## ～慢性腎臓病について～

15歳以上の猫の30～50%が
慢性腎臓病といわれています。
このような症状が見られたら
「慢性腎臓病」かもしれません。

- ☑ 尿量が異常に増える または減る
- ☑ 尿の色が薄い

- ☑ 飲水量が増えた



他にもこのような症状が現れることがあります。

- ☑ 食欲が落ちた
- ☑ よく吐く
- ☑ 元気がない
- ☑ 体重が減った

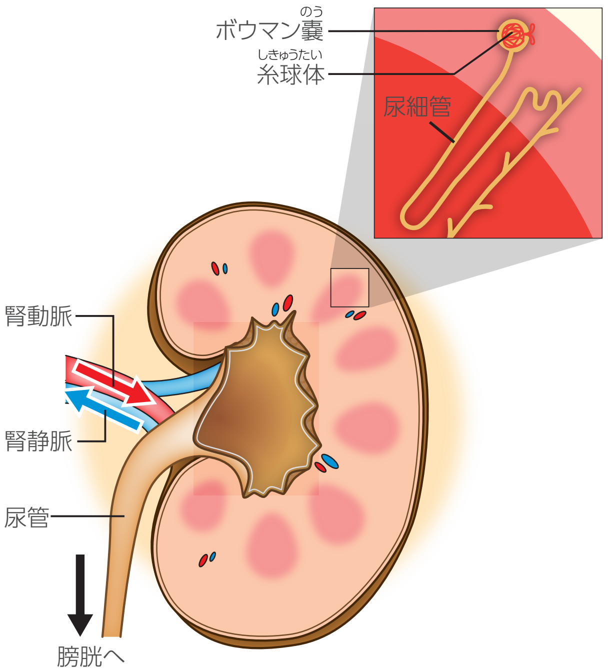
上記チェック項目は犬猫同様です。
どれか1つでも気になることがあれば、
検査を受け、早期発見を目指しましょう。

## 腎臓は血液をろ過し、老廃物と体に必要なものを仕分けして、尿をつくります

### 〈腎臓の役割〉

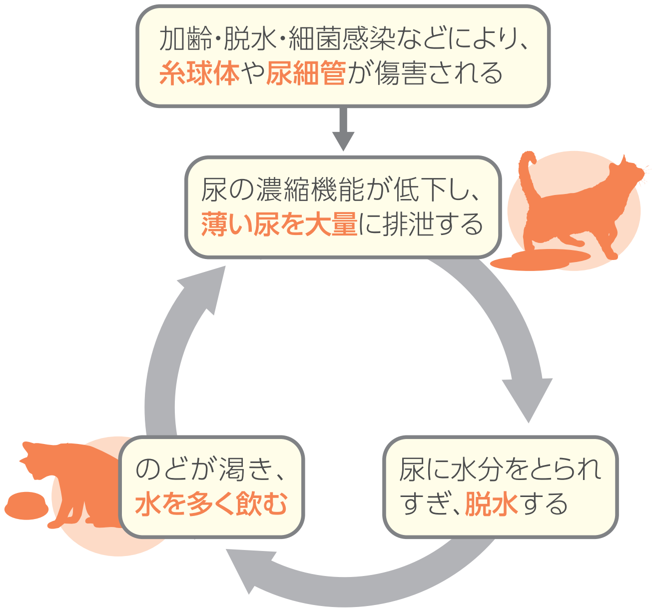
1. 血中老廃物の除去
2. ホルモンの分泌
3. 血圧の調整
4. ナトリウム、カリウム、カルシウム、リンなどの調整

### 〈腎臓での血液の流れ〉

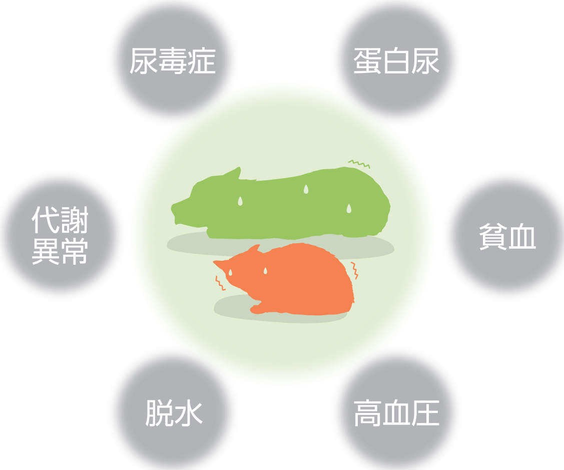



腎動脈から腎臓に入った血液は、老廃物が取り除かれ、きれいな血液となり、体へ戻ります。不要物は尿として体外へ排泄されます。

## 慢性腎臓病で尿の量・色に変化が出る理由




## 慢性腎臓病が進行すると、重篤な状態を引き起こします

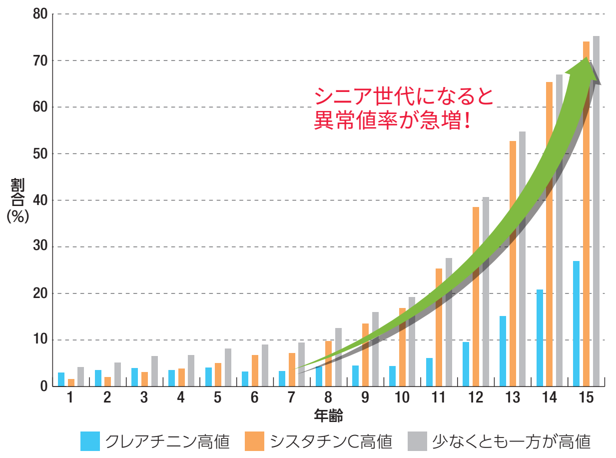



腎臓が75%以上の機能を失った状態を「腎不全」といいます。

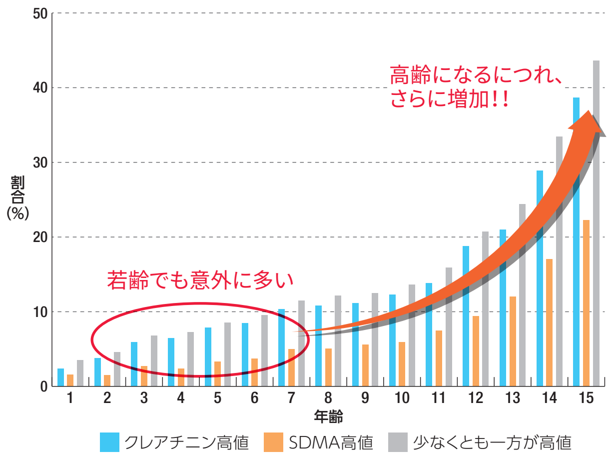
## 血液検査で腎臓の状態を把握することができます

わんちゃん・ねこちゃんと楽しく
豊かな生活を送るために、
年に1～2回は動物病院へ行き、
健康診断を受けましょう!

●犬における年齢別腎機能検査の異常値率※




●猫における年齢別腎機能検査の異常値率※




※2024年4月～2025年3月に健康診断として富士フイルムVETシステムズ株式会社へ依頼された腎機能検査シスタチンC(犬)、SDMA(猫)、クレアチニン(犬・猫)の結果より。参考基準範囲を上回った値を異常値としています。

# Q&A

**Q** リスク要因は何ですか?

**A** 加齢・歯周病・脱水などが挙げられます。

**Q** 慢性腎臓病は治りますか?

**A** 腎臓は一度悪くなると、良くならないと言われています。さらに放っておくと徐々にではなく、一気に進行してしまいます。ただし、早めに腎臓病を見つけ、治療を開始することで、進行を遅らせ、状態を維持することができます。日ごろから尿量・尿の臭いや色・飲水量のチェックを行いましょう。

**Q** どのような治療をしますか?

**A** 症状に合わせた対症療法や、リン・ナトリウム・蛋白質を制限した食事療法を行います。

**Q** どのような検査が必要ですか?

**A** 血液検査、尿検査、超音波(エコー)検査、レントゲン検査などを行い、腎臓の状態を確認します。主治医の先生へご相談ください。

**Q** FGF23とは何ですか?

**A** 腎臓病用の食事へ変更する場合や治療薬の投与開始・変更する判断の指標となる検査項目です。

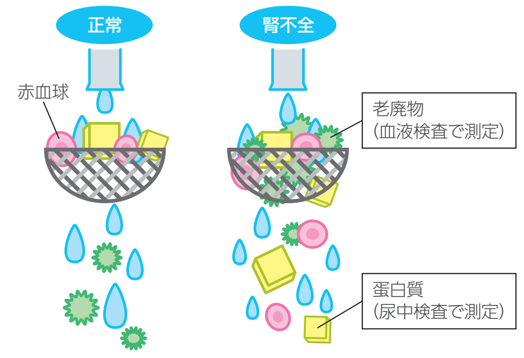
## 血液・尿検査で腎臓の異常が分かる理由

**血液検査**

正常な腎臓は血液フィルターとして、老廃物を尿中へ排泄しています。しかし腎機能が低下するとフィルターの網が目詰まりし、ろ過が十分にできなくなるため、老廃物である代謝産物が血液中に溜まってしまいます。血液検査では**尿素窒素・クレアチニン・シスタチンC・SDMA**などの濃度を測定し、腎機能低下の指標にします。また、リン・カルシウム代謝異常の検査として**FGF23・リン・カルシウム**を測定します。

**尿検査**

正常な腎臓では、血液中の蛋白質は尿中へほとんど排泄されません。しかし腎機能が低下すると、尿中へ蛋白質が漏れ出します。尿検査ではこの蛋白質(**UPC・UAC**など)の量のほか、比重などを測定し腎機能を確認します。





監修:日本獣医生命科学大学　獣医内科学研究室第二　准教授 宮川 優一 先生



FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。



富士フイルム VETシステムズ株式会社
http://ffvs.fujifilm.co.jp
腎臓病(2P)-2510-FFBX-3